

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：北広島町立芸北中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
北広島町立芸北中学校	5	37名
北広島町立芸北小学校	6	57名

(R3.11.1現在)

1 指導上の課題

- 単元のゴールを教師主導で仕組んでいる部分が多く、児童生徒の課題意識や必要感を引き出しきれていない。
- 平成29年度に作成した「身に付けさせたい資質・能力の系統表」が現在の児童生徒実態に合っているか再検討する必要がある。
- 指導者の主観に頼る評価になっていたため、児童生徒に資質・能力が身に付いたかどうかを客観的に評価するための指標が必要である。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

児童生徒自らが探究する

生活科・総合的な学習の時間の創造
～身に付けさせたい資質・能力の系統表の作成と
ルーブリックによる評価を通して～

②研究のねらい

児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にすること、ルーブリックによる評価を行うこと、生活科・総合的な学習の時間の単元開発・授業改善をすることを通して、自ら探究する児童生徒を育成する。

(2) 資質・能力の設定について

身に付けさせたい資質・能力は、これまで設定していた6つを継続することとし、以下のように整理した。

学習指導要領が示す育成すべき資質・能力の3つの柱	芸北小中学校が児童生徒に身に付けさせたい資質・能力
知識及び技能	自己回復力 協働する力 課題解決力 安全・安心をつくる力
思考力、判断力、表現力等	多面的・多角的な見方・考え方
学びに向かう力、人間性等	意志力

(3) 取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

- ①芸北小中学校「学びのスタイル」の統一
えがく・・・今の自分を見つめ、活動を通して「めざす自分」とその理由、予想される「妨げ」とそれを乗り越えるための「作戦」を考える。

やってみる・・・「めざす自分」になるためにチャレンジする。
ふり返る・・・「めざす自分」になる（近づく）ことができたかをふり返り、その理由（原因）を考えて次の活動に生かす。



以上の学習過程を繰り返すことで、児童生徒の主体的な学びを促すとともに、一人一人の資質・能力を向上させる。

②新規単元の開発

小学校第6学年 総合的な学習の時間
「芸北での学びを生かして～Youは何する芸北で?～」

③既存単元の改善

中学校第3学年 総合的な学習の時間
「芸北マルシェ」

【小中連携の取組】

①推進協議会

- ・児童生徒実態の交流
- ・身に付けさせたい資質・能力についての協議
- ・授業研究
- ・ルーブリックによる評価について 等

②小中合同研修

- ・ルーブリックの作成方法について

【資質・能力の評価】

- ①開発・改善した単元について、ルーブリックを作成し、それに基づいて評価を行った。
- ②児童生徒に自己評価をさせた。

3 実践事例

【探究的な学習の充実に向けての取組】

～新規単元の開発～

小学校第6学年 総合的な学習の時間
「芸北での学びを生かして～Youは何する芸北で?～」

第1節 芸北で暮らす人々の思いや願いを知ろう。

- ①地域の方にアンケート調査を実施→341名（うち芸北在住213名）から回答→整理・分析
- ②地域で活躍されている方々（4名）の話を聞く





地域の方々の生の声に触れたことで、自分たちも芸北のために何かしたい、できそうだという思いをもった。

第2節 芸北をより良くするためのプロジェクトを考え、提案しよう。

プロジェクト名「芸北未来プロジェクト」

①プロジェクト会議の繰り返し（4名×3チーム）

空き教室をコワーキングスペースとし、ゲストティーチャーが個々の仕事をしながら待機
児童が必要に応じて相談⇒アドバイスをもとに改善



②提案発表会の繰り返し（リハーサルと本番）

リハーサルで発表した内容について、他チームの児童やゲストティーチャーが質問やアドバイス
→内容を改善して本番へ

●提案1「芸北の自然を大切に」

～みんなで楽しいゴミ拾い～

地域のゴミを拾って芸北の自然を守る。

●提案2「芸北の良い所を知ってもらおう」

～人口を増やして芸北を盛り上げたい～

芸北の自然を使って工作キットを作り販売することで、芸北の良い所を広める。

●提案3「芸北をもっと元気に！」

～芸北の魅力を届けよう～

芸北バーチャルツアー（芸北に来て観光をしているような動画を作って見もらう）を通して、芸北の魅力を広める。

③プロジェクトの目的に合っているか、内容に説得力があるか等の条件を考慮して話し合い、3つの提案の中から1つを選んだ。



3つの提案の中から1つを選んで実行するという見通しをもたせることで、主体的な話し合いになった。

他チームの児童やゲストティーチャーからの質問・アドバイスにより、探究意欲を持続させ、様々な視点で深く考えることができた。

第3節 プロジェクトを実行して、より良い芸北の未来につなげよう。

活動名「ゴミ退治」

①ちらしを作成し、保護者・地域の方に呼びかけ
→当日15名の参加

②4チームが違うルートのゴミを拾い、量を競う
→一番多かったチームを表彰

（ゲストティーチャーの「わくわく感を大切に」というアドバイスを参考に）

③「芸北未来プロジェクト便り」を作成→芸北全戸に配布
「ゴミ退治」の報告、ゴミのポイ捨てをなくすことを呼びかけ



自分たちの呼びかけで地域の方が動いてくださったこと、ゴミを拾って地域がきれいになったこと等から達成感を持ち、自分たちにも芸北のためにできることがあるということを実感した。

4 研究の成果と課題等

(1) 成果

- 6つの資質・能力を「3つの柱」に整理したことで、総合的な学習の時間の目標設定や評価を行いやすくなった。
- ルーブリックを作成し、それを用いて評価を行う研修を通して、ルーブリックによる評価についての理解を深めた。
- 小学校では新規単元の開発、中学校では既存単元の改善を行うことを通して、児童生徒自らが探究する授業づくりについての理解を深めた。
- 児童生徒は、開発や改善を行った単元の学習に主体的に取り組むことができた。単元実施後のアンケートでは、全員が自らの意志力（学びに向かう力・人間性等）の向上について肯定的に回答していた。

(2) 課題

- 更なる評価の充実のために「身に付けさせたい資質・能力」と「資質・能力の系統表」は、改善を継続する必要がある。
- 全ての学年において単元の開発や改善、ルーブリックの作成を行い、児童生徒自らが探究する学びをしていく必要がある。

(3) 今後の改善方策等

- 児童生徒の実態に合わせて「身に付けさせたい資質・能力」と「資質・能力の系統表」の修正を継続する。
- 全学年の単元ルーブリックを作成し、指導と評価に生かす。
- 今年度の研究成果を生かして、全学年の単元を、児童生徒自らが探究する学びとなるような単元にブラッシュアップする。